

泉岳寺特別市民講座

赤穂浪士の 泉岳寺から、 日本の風景・ 景観を考える

ヨーロッパを旅すると、それぞれの町並みが個性的で美しく、その地域の歴史や文化を大切にしていることに驚き、感動します。一方、日本では高いビルが無秩序に建ち、古く味わいのある景観や懐かしく愛着のある建物がどんどん壊されていくことが、当たり前のようになっていきます。もう少しなんとかならないのかと思う人は多いはずですよ。

現在、四十七士の墓を300年もの間守りつづけてきた東京高輪・泉岳寺の中門脇に約24メートル、8階建のマシオンが建設中ですが、日本全国で見られるこうした問題もまた、「こっぴどく日本だから起きている問題です。どうしてこうした事態が起こるのか、何が問題なのかを考えてみます。」

2015.2.15 日 第一回 10:00~12:30

赤穂四十七士の「心」と日本人の「公」 ——泉岳寺風景の危機を巡って

東郷和彦（元駐オランダ大使）

五十嵐敬喜（法政大学名誉教授・日本景観学会会長）

東郷和彦氏の著書「戦後日本が失ったもの 風景・人間・国家」（角川新書）をテーマに、江戸時代の風景と戦後から現代に至る東京の風景を比較していただきながら、日本人が、戦後に特に失ってきた「公」の感覚と「心」の問題を通して景観について考えます。対談後は会場とのディスカッションにより、学びを深めたいと思います。

2015.2.22 日 第二回 15:00~17:30

東京五輪に向けて東京を文化都市に ——世界からみた泉岳寺の景観問題

松浦晃一郎（元ユネスコ事務局長）

五十嵐敬喜（法政大学名誉教授・日本景観学会会長）

2020年の東京五輪に向けて、アジアで初めてユネスコ事務局長を務めた松浦氏から、世界的にみた「文化都市」とはなにかについて、また、どのように泉岳寺の景観を保全していくかを明らかにしていきます。さらに、世界遺産の第一人者として、世界遺産登録での経験を踏まえて、泉岳寺と忠臣蔵のストーリーを組み合わせることによって、泉岳寺の世界遺産への登録の可能性についても議論します。対談後は会場とのディスカッションにより、学びを深めたいと思います。

【参加費】各回 1000円（各回それぞれの参加も可）

【場所】泉岳寺講堂（東京都港区高輪2-11-1）（地図）<https://goo.gl/maps/fbhNo> 【定員】各回 60名

【申込み】お名前、ご住所、電話番号、Email等を明記のうえ、下記いづれかの方法でお申込み下さい。（参加費は当日受付でお支払いください）

電話：070-6560-8062（泉岳寺） FAX：03-3441-2208 E-mail：sengakujiwomamorukai@gmail.com

【問合せ】国指定史跡・泉岳寺の歴史的文化財を守る会・吉田朱音（電話：080-4079-5569）

【講師プロフィール】

東郷和彦（とうごうかずひこ）

京都産業大学教授・世界問題研究所長、静岡県対外関係補佐官。

1945年生まれ、1968年外務省入省。元在ロシア連邦日本大使館次席公使、元駐オランダ大使等を経て、現職。祖父は太平洋戦争の開戦時と終戦時に外務大臣を務めた東郷茂徳。主な著者に、「戦後日本が失ったもの 風景・人間・国家」、「歴史認識を問い直す：靖国・慰安婦・領土問題」（角川oneテーマ21）、「歴史と外交：靖国・アジア・東京裁判」（講談社新書）など多数。

松浦晃一郎（まつうら こういちろう）

（財）日仏会館理事長、（社）アフリカ協会会長。元外交官。

1937年山口県生まれ。外務省入省後、経済協力局長、北米局長、外務審議官を経て94年より駐仏大使。98年世界遺産委員会議長、99年にはアジアから初のユネスコ事務局長に就任。仏文学にも精通しており、無形文化遺産保護条約や文化多様性条約など文化遺産保護などにも業績を残している。著書に『世界遺産—ユネスコ事務局長は訴える』（講談社）、「国際人のすすめ」（静山社）など。

五十嵐敬喜（いがらしたかよし）

法政大学名誉教授、日本景観学会会長、弁護士、元内閣官房参与。

1944年山形県生まれ。専門は、都市政策、立法学、公共事業論。都市計画学会賞を受賞した画期的条例である神奈川県真鶴町の「美の条例」の制定をはじめ、全国の自治体や住民運動に協力している。主な著者に「都市再生を問う」（岩波新書）、「美の条例—いきづく町をつくる」（学芸出版社）、「現代総論序説」（ブックエンド）、「国立景観訴訟」（公人の友社）など多数。